

【活動計画】

1 種苗生産

・港内及び他港の船底等に繁茂する幼体を採取し、石に接着し港内に設置します。一部は保護籠に入れ食害から保護します。また大きなコンクリート塊を港内投入し着生礁とします。

2 種苗設置

・港内で育成し活着した幼体及び新たに接着した幼体を、港内、港外、宇留井島周辺に投入します。一部は水中ボンブで岩に接着し安定させます。

3 母藻投入

・下流漁港周辺で台風により打ち上げられたカジメの子囊班を確認し、採取したものを港内、港外、宇留井島にスポアバックに入れ投入します。

4 食害生物の除去

・刺し網によりブダイ、ニザダイ、メジナ、タカノハダイなどの食害魚を駆除します。

5 モニタリング

・港内に1点、港外に9点、宇留井島に1点合計11点の観測基点を設け、景観被度を計測しています。

●令和4年度の実績

【実績】

1 種苗生産



■小稲漁港のカジメ繁茂状況



■幼体を石に接着する

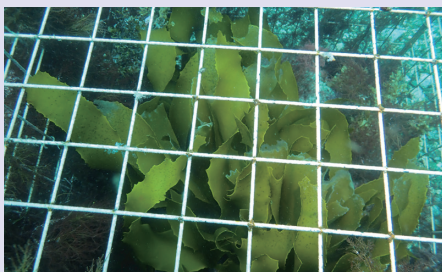


■港内の保護籠内



■着生礁としてコンクリート塊の投入

2 種苗設置



■設置した様子(宇留井島)

3 母藻投入 (R3の状況)



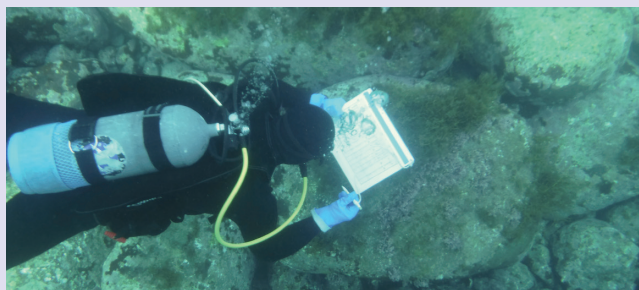
■今年度は伊豆半島全域で繁殖が少なく母藻の採取が困難となったため断念した。

4 食害生物の除去



■駆除魚種の確認

5 モニタリング



■モニタリング

【これからの課題】

1. 港外と宇留井島は毎年秋になると設置したカジメは全滅する。原因は高水温、食害魚、波浪が複合的に作用していると思われる。
2. 今年度の特に夏の水温が高く、港内のカジメもほとんどなくなり、毎年船底に繁茂する幼体もないため、近隣の漁港に協力を求めたところ幼体採取の許可がとれた、このような協力をもっと広域的かつ永年続けられるような体制を築きたい。
3. カジメは高水温に弱いため、他の大型藻類にも目を向けて伊浜に適した種類を模索する。